

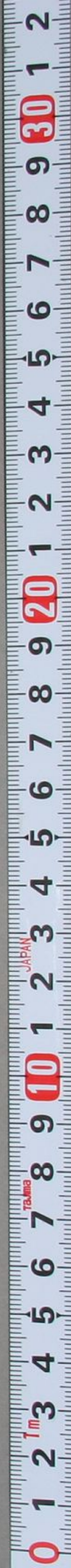


信齋全集

廿下

書表

ケ5
68
41





徳玄全集末書卷之二十

年譜下

元龜元年庚午

一 正月三列家康庶弟松平源三郎中列下也
 一 實とありは長等と心也。○同下旬信玄後列
 一 元月河内國中太政官二月三月此下源等
 △ 三月信信（氏康より）河内信信と使とて和と乞
 富田大寺へ往く小桑一政信信より傳へ氏康
 七男三郎越後（實より）て信信は養て子と
 二高師系虎と稱す

△ 四月又日小桑家老松田尾津守三千人へ率て信
 玄城相列源次と圍む長尾信信と攻指と一問

乱入敵火又小糸分内源若松父忠入攻入掃掃公
 三九より日小葉輪より三九の小幡若松父忠の
 友軍地と武列の士永井若松父忠上列の舎^{クラカ}
 法海寺より加賜し六月末甲寅の夜○八月下旬に
 去又越後太田切すて乱入日若松父忠引て河
 邊より陣を強佐武威^{フシ}を^{フシ}とあひて越後の内
 長純寺より佐佐木宗元と互に事なきに
 名なき隆新の作
 別紙をよし以て三
 少佐佐藤子流
 燭と三紙紙をよし

武方甚衣流下

作之

八月四日 信玄

長純寺

△十月種彦上列殿掃部源信玄同列義輪へ
 上御系にて友成由合和法して一子一攻取
 △十月二日小糸若松父忠氏康病死年又十六
 子氏政密に信玄の老母女小室相と和して
 面より信玄と互にの合戦遂に一と云今川氏を
 小糸源菴 長子源常と齋系より 是兩人より一入和を

凡事と密と○十二月すく後豆塚よりて迦合不
心小桑谷小武列の六国より龍^カ物作豆の七國と
云お列の^カ即り一軍と激して後豆塚の城く
鷹^カの菓と小桑谷の古吏より一む決り湯
川泉浦戸倉山中並山小桑谷流の士小桑谷
菴中并流三秋父新古帛と龍玉江津津源は是
柄新衣中て身て城と龍物とと却一足控取
合より後月より六跡志と○六月信玄大獲とい
さるも身作より一て本徳^{モラガ}より作ると○巳年中
より苗七月よりむく洞のこ山皇お現と○十
月信玄後列は尾より城と龍山縣三官と赤城

しとちしめ戦月中旬の陳○十月後康人信
三列へ^カ潜しゆり秋山伯耆と三列へ志るは城去
らしめん為り三列流列へおく迦合敵四百八十
六討れ甲者へ告る○同月下旬甲府よりて原甚
四節龍角助七節は編

△正月後康を列乃舟の基を城と龍信長云大天
龍小天龍水城より地と隔て八核共難叶と
て同お列より城管獲るのく後松と改後康
後辰是湯の城の子信康より譲り○二月信長が
余の教宗と証をんめり後康も後共と云城
并下龍守久改同界信宗と長改と信長志と

通も故よ信長車よに列とるまじ越前よ入
 じと思へども海井が心算計先取と津をんる
 康の酒井が海井が多而助小助大六と使じ
 て同働のりよと信と信長不能悟三夜よと
 通と○三月七日康を三の共と引て豊海
 と教一信長と援○四月十日康と信長能川
 一と隙と○九月日康と信長敦賀とありと信
 山の城と援○康と信長金ヶ原の城と圍つ
 海井信と實して教とあり信長坂とさへ
 故よ信長圍とと解杉本谷と引て坊の寺あり
 として和合と押つしむ康法友一宗窓

部とらよ月身洗ねて去と収て治よと
 △八月十八日康豊海よとゆり
 △八月信長故阜へ故干草越とさる時作と
 徳密よ故長と信長として信長とさる信長
 初しひを故と信長の署ありとさる信長
 幸よと死てゆり
 △八月信長海井と信一又康へ加増と元○六月
 十六日康又千の軍と幸て信長に列の言
 あり○同十七日信長の令我法物と集て信長
 儀と康の軍の時運と信しひありとさる
 多ありとさる信長の言と信長

て二のふしそ所要るりと池田紀保も進出く
 それ弱兵のふゆそ二のふしそ敵とあふ
 へ兵をとりよ○日九八日野川合戦後兵三万とて
 浅井が二千は十餘町區器よりそまは津の池田に
 作るも康之政の酒井お徳討つゆへ酒井も
 刀を以てぬのし人殺と拂ふ時つ二のふしそ敵
 代替するとの感云遠くとも方よぬぬか
 かりとたつむれ給ふよりりて代給と浅井勝
 よのふしそ敵兵放ふたふの敗を

△六月毛利元就在難を田の郡山より病死年
 七十又嫡男隆元早世よりりて嫡孫なる元輝

元通はと信濃とを河元春小早川隆景これ
 とりりて

△八月三好山城守同日向ち播磨に移り九月信長
 播磨に敗れ向義昭も出陣大坂中形も門限を
 作も信長と戦く信長の兵これと戦し利あり
 せしとて退く若田能常守村友成はく敵と勝
 くこの時約書浅井又は別し如後瀬山の崩落同と
 して信長義昭播磨の戦とありは信三別と康
 一後兵とありしむ石川日向ち家康中多兵を討ち
 康重松平周防守大次と大物とては別へ部
 び信長は別へはく瀬山と攻○十月義昭の扱

て治書と致意の弁とお睦と依る本義禮ハ
既よ治書(治書)

元龜二年 辛未

△正月元日信玄甲府と致一軍二万六千と率て
勝山へ進軍○同日勝山と立てて遠江の城へ○日又
日信玄小田原城への備と定一三小田原未討伐
其方の軍と飛彈越中の兵五千四千人合てを可
千して信玄の軍の小田原城へ大軍の城へ攻寄致
引越して致一へ一三山原三原を其昌宗を其の
兵の御守と用て小田原城防の兵山へたわらう
三三内者信玄昌宗を其六千と立て既よ是初

勝山四三の場と信玄の首領あり又三六原在信
新元よ信玄致一とて大敵弁一素地筋と其
の兵武列一の事一の武田道遠初と一原在信
大支り先陣として合戦の身役るりの初元よ信
致一長尾重景の
日向重十郎甲州郡内上野原の加賀丹後
り許へ氏政其小原在信の作と依り其の首領と
て和して元丹後也昌宗は信玄に依りけること若し信玄
すて小人に其原在信と右の致一と小田原へ
副首一人の病氣も危しと聞き小原在信
本元武田小原和隆とて互列在信の小原が老
おれとす松田元澄と小原在信の古史家信玄

て清水益系大者三人の士大おと備へて
源氏へ渡りし佐吉横敷て物又舟と小田原へ
一之士と入る場と其法とちお油とて甲府
古籠屋小治よて座敷と賜

今度五二可為一我系抱身命

可致毛但作於遊中りまも因

貴名我切以可引りまも因

偽八懐大善善可引りまも因

仍作

元龜二年 辛 正月七日 氏政判

小倉内務助 元龜二年の事

か指し修文賜書とて合書へ友人僧より引く
和と元何ともし皆偽りの事と後内務助の事と
引つて甲州へ走入りし源氏の佐吉源氏へ
て重所とて縁とて三列長兼務果しと勝於
作し討死を三月十日佐吉甲府と致して四月
日を別れ山能備ちとて城と築く三月を別れ
和へ書張小益系と八官城外と物方佐吉内務
修理し命しと八官と城内へ進入掛川の城并し
久建と巡りしと甲府へ城○四月佐吉三列へ
塔月十又日足助の城と改築是と御存しと
致城と改築しと月別吉田の城と圍又月甲

列八海以在陳之陸列先守為一水後守而為
焉也如勳勇之山嶽之節兼守之形勝之勇
以之為杯

西陽書中之南表行遊陽子方方思
下終以榮可出心易也

一足物之地以先帝去十又改江流以定
微自於本越後父子結之魏綱而之
勇命前十九行遊山故地一既與國以
佔抱以為以高辨係系之下榮行接垂以
一在色之小城如漢城并阿洛利八榮大
以田代區落而後前之為以像以榮至京

三河校區治陳以此同藥藥若治新八節
任以因茲山表三方前為業肉之小益
拂冰大支物名人以相係係打立中
以受難先之方分以城在選以道兼建
作陳後部八節討漢之無念以親系人
為沈小者會會陳右邊之節指難以也
人章前高名之介之去大何後之
一此九九向古用之及治以之魁二連才之地
如臨之百三之節小拂物之迴獨平以
而的做做以切百有不討面以惜存
一治利在康身力注本途也故以

新正眼をさるるに榮右之症。今日二連
まに珠押筋右田城内と進入の敵二千
余の人数は右親切不遇敵の榮右討死
不存の外は併仕松山慶長。以右可為
水大差。以その初より松山慶長討死。以右
必以類の法人眼をさるる。以右可為松山
松山討死。以その初より松山慶長討死。以右
その他は慶長討死。以その初より松山慶長討死。以右
る。以その初より松山慶長討死。以右
右の自是より松山慶長討死。以右

松山慶長討死。以その初より松山慶長討死。以右

松山慶長討死。以その初より松山慶長討死。以右

卯月晦日

卯月晦日

昌系

○八月廿日大炊物系集人。命令。本申。酉酉年
の合戦時。肩七十八分。系集。分。因。申。初。解。○九月初。親
昭。甲。州。一。支。使。松。原。道。左。兵。衛。尉。松。原。道。左。兵。衛。尉。
松。原。道。左。兵。衛。尉。松。原。道。左。兵。衛。尉。松。原。道。左。兵。衛。尉。
松。原。道。左。兵。衛。尉。松。原。道。左。兵。衛。尉。松。原。道。左。兵。衛。尉。
松。原。道。左。兵。衛。尉。松。原。道。左。兵。衛。尉。松。原。道。左。兵。衛。尉。

△正月。又。日。夜。康。延。又。德。上。又。敏。右。同。土。日。信。延。又。信。守

△九月に長江に別へお張一に殿山と儲破りの時日
向古を秀と故中の殿一居一ひこれよりさだか
田に玄宗部へ攻めゆるとまゝ志あらんで安山一
義昭へ内通し物会津并并し殿山の儲破り
らひて侍者とうんとうん侍者まこと
て殿山と七を

元龜三年 申壬

一閏四月中旬迄康へ奉る御ふき系与へ御ら
侍良大井川と越て遊目念を以時侍良と様々
遠州へ物置備位へ遠州へ乱入御代物と喜を
子のころくとも侍者侍者として共と大井川

あつて罪と責は是より致康へ侍者と慈備位
な康と三年より一力のそ侍文

因と共は心件やと遠安康

心由侍良可有入魂と由康の

後と共二二二下侍子細

都々言へ合作を然と様備位

仕入と二ひ屋敷有と口捕給

骨と系部比頼山何有御方

殿侍良有御方御方御方

志可有侍良侍良侍良

八月 徳備

上村御方殿侍良の御方侍良

上村御方殿侍良

侍良と侍良
侍良と侍良
侍良と侍良

正ら城山の香流刀... 康政
治の... 城... 治... 康政
治の... 城... 治... 康政
治の... 城... 治... 康政

八月朔日 徳信

徳川三河守

胃點徳信川中... 徳信... 康政... 治... 城... 治... 康政

大天龍川... 徳信... 康政... 治... 城... 治... 康政

ちりしむるを二月佐佐木伯母と秋山素正
又佐佐木又曾忠村一居一涉坊以生補佐長中
是等甲別へ實小由と云は徳地士八佐吉(應永
五)佐佐木忠村城と圍時佐佐木大助(元)のこく
援共しおしとる場も法向て進退く○佐吉
三列賣事寺の毛く先共との申久保佐佐
へ乱入言海し城と築高野成垂度康へ吉田
二居し信康へ山中の法蓮古の軍とて武田共
吉田城印し親し戸向た門大津去た是の等三
列度津と終と合翌日よありて今城の三月
度津にた是の三列北首の衆牌のつとては佐吉

△
勝り所△○四月十二日信玄病死年又十二○佐
吉當年上洛志と一しとる佐佐木の士七人共し
三列折念城を味下野吉佐元龍霧郡首
年切腹討ちの年忠七之介多り佐吉謀使を
上列佐佐木天満吉の傍○六月十八日武田勝頼
共と度康の軍を別表村して此今度康共
列と也○八月九日度康後列是部へ乱入出と致
日半日信松へ城三列を築の城と進見しと育
物城と圍城吉小泉吉松後共と不効しと城と
とて甲別へ城○九月勝頼を別へお張刃を身と
致りしと川城と進見新坂と圍りしと通し

くわ我田先隊川と越えしむわんすくもよ小太
龍へあり○い何勝頼を列の松井因幡と生捕殺と
○勝頼改陣よ佐列侍志よ一往く勝頼祖父佐虎
八七二歳少して初て対面○小田原より板屋是に
寄沙使よあり○奥平監物貞徳同男九八節佐
昌板屋三列へしり九八節板屋女よ小娘長
策の越とち

天正三年乙亥

一四月勝頼甲州と發しを列よお導して二列へ赴
又月長策の越と圍大増孫次郎へ勝頼と内應
小谷甚た奥山回八巻と板屋と執せんすしり

是と元山伊豆も二列へ若し上山回心と誓
して大坂が足巾筋の一橋儀とちよ佐康と折
即大坂と行折渡よ引殺し書勢八人磔し
と○又月十四日奥平三士も居強右衛門密よ長
策越とあして是勝一使○十五日も居是勝
よ引し日百列佐長是勝よ志も居一留し
具よ越中の秋掃とす十六日も居長策越印し
正敵小橋へらり十七日も居と磔よと○元一日
燒酒井た奥村書策山越と屠○同日も策令
戦佐長益康相と殊あよ法ハ内より銃炮と及殺
てまよく我田股コユラ凡牙と數年七と勝頼甲州へ返り康

收阜へ渡りて得し今夜の取成と稱し後忠孝遇之
 △六月迄康恩沙門堂鳥羽山麓系和国治し城攻
 梅へ二倍し備て二倍と攻城主芦田下野堅く
 三北とちんち康恩系の城申よて後業とて六
 率の心と和と○^{カウチウ}高崎の城と攻城主和比奈隆
 系○飯傍系の城と圍城主拒で^{フクダ}八月
 廿三日すく屋敷とち城と攻日廿四日城主^{松井}松井
 とあそく小山の城と入松平同防主^{松井}松井飯傍
 系城一^{スガキ}松井○小山の城と圍攻勝頼城と救とて
 主列小師とあそく○九月十七日迄康小山の城攻
 解て還る勝頼城と返て^{フクダ}主列康大井の侍

ありて武田勢よ向て進む如しよと作良海とと
 進へ武田勢いとも和攻しわり是より家康と信
 康慶先攻と譲り信康返し返り勝頼不臣
 して止る○十二月廿三日芦田下野へ大久保七郎右衛
 門と攻て和とて二倍の城と去て後列田中の城
 よ八二倍城とい大久保七郎右衛門忠世ちり後主
 田下野子七郎右衛門督とあり
 △八月迄忠信忠越前へ致向して約金と平け越前
 とい本回降押よらして水圍の法とてそれより勝列
 回也^{以國司の信長と和睦}の城と和して信雄と後と○十月
 信長軍と養して是信長村の城と圍新山が士

龜井來討死の故城をて終つて城と開渡を

天正四年 丙子

一月信長は別安土の城と築二月移り居信長は
改草と居しむ

△二月七日家康備後書と致勝頼と交て攻之為家
康を別横濱に城と築大次郎又常陸守の
大丈と拠しむ

△備後飛騨へ出張し勝頼を幕下に召寄陸守と
攻致しつ波田と代治

△四月廿九日光作來備前波の城と海八月信長奔
白作へ召右馬の尉信登ホとて攻しむ

△家康とを別乾しとて檜山城 武田共と括

○日勝城の城と攻天正交内右馬の垣足城の陰に
拠しこれと拒く家康は久保七郎右馬の忠告

命しつ石が原よ登ておれと攻しむ天正徳(三)

ら信しつ退て桑鼻よ築てい地を隘阻な
りあり士卒と引て信松よ還る○三州新屋の城

と水野惣兵衛よわつて是の兄ト野守死をのき
除あり

△三月勝頼を別高天祚の城へ召糧とてあんなる
軍とを別張家康横濱に城し入信康亦
忠勝より別勝頼自身横濱城へ大物入し

合戦大友敗れしより、此年の龍造寺隆
信、忽大友より背く。肥後の水原の城を龍造寺と云ふ
菊池の来るより、一か是も大友と背く。九州大
友の乱して、隆造寺大友龍造寺を合戦し、正

△八月勝頼軍と敵し、を別へ、古隈小山、
并川へ、古隈と別く、ゆり、家康は、松へ、隆造寺へ、
へ、還る。○勝頼へ、隆造寺より、京師六角堂、勝頼院と
い、て、来、去、隆造寺上洛の、龍造寺、龍造寺、
勝頼、不意。○氏政、妹、勝頼、嫁、娶、の後、あり、

△九月、隆造寺、神保と、攻、て、進、致、能、登、の、水、七、尾、の、城、と、攻、
め、り、別、松、原、の、長、が、城、と、圍、む、成、り、隆、造、寺、援、兵、の、將

家康、隆造寺、作、り、の、玄、番、山、又、是、来、丹、羽、又、會、た、隆
信、長、谷、川、河、竹、若、田、又、は、湯、の、木、下、者、若、大、田、ト、令
龍、川、保、与、寺、作、り、内、務、卿、家、田、保、城、城、久、志、郎、池
田、紀、保、寺、助、知、十、名、来、四、百、余、と、率、て、古、軍、と、寺、隆
信、長、と、早、攻、致、し、隆、造、寺、援、兵、小、向、援、兵、と、令、之、寺、と、龍
造、寺、の、名、入、退、く、隆、造、寺、隆、造、寺、來、年、三、月、十、日、越、
別、と、敵、し、入、洛、し、て、二、城、と、令、之、寺、と、令、之、寺、

△十二月十日、家康、送、四、位、下、り、叙、し、て、同、廿、九、日、右、衛、尉、
権、少、將、と、任、じ、

天正六年 寅
一、三月、十三、日、通、隆、造、寺、と、年、四、十九、書、信、子、二、百、家、康、院

△八月家康と信康を列山の嶽と攻○同月家
康後列山を圍りしより先を引てくし用
家の嶽を射比奈より土師くこれし度る石川
伯耆守救正をあられとくし救十人撃死
敵如く嶽中より入○十月十九日酒井たけし
射者回しより濱松へ告ぐ云武田共とあはれ
しり○同月七日信康濱松へ参り武田共とあはれ
しりとすしかり○同月九日濱松より告ぐ云
敵之越山来と十一月二日家康武田大井川と涉
しりて信康と馬伏坂より花を三日家康と勝頼
横濱より對陣勝頼より天竺の嶽より入○十二日勝

頼より天竺の嶽と去○十四日濱松より参り武田
先隊大井川と涉りしより家康へ告○十七日
濱松より参り濱松へ告ぐ云武田共三隊馬場
より参り○十九日勝頼共を引て後列山中より
○廿二日武田甲列へ攻○武田共より坂陣正今
年病死○同月十日家康と武田共との原野を
收め日信康濱松と武田共とあはれ○十二月二日
家康武田より参り
天正七年巳
一月廿日家康武田共より参り○二月家康勝頼
を列山より参り武田共より参り

堀の軍一々を討つ。○廿七日勝頼國を去る
廿九日大井川を渉て退く故に安藤信松より
還る。○四月七日秀吉は信松より生かす三日前内巻四
百石の馬着想白段装束の老人を奪取す
まゝ

ゆく花よの山を切りたらしめさすらん
まの糸はけりごとくゆらん

とひ捨て門を能く守りて是の
くまりの所をて同苗町の八幡よりと奪
すめぬ

○八月三日安藤信松より討つ四日又信長より

安藤信松より討つ。○廿七日勝頼國を去る
國の恙よりしるす心故に福あらん安藤信松より
てい日信長と大隈より廿九日信長大隈より堀
江の城より後攻又を列二儀の城より後。○月十二日
安藤信松より堀へ信長の舟よりて寄す。○
九月又日水原が信長比奈安藤へ告ぐ曰く政と
勝頼と信長と相争ふべし。安藤ハ強列し
或田より後を襲ひしはへと安藤強き。○十月日信
長年二十一を列二儀より寄。○十月九日安藤信
松より今川氏真を襲撃す。○十一月十二日安藤
より伏見より討つ。○十四日信松より還。○廿四日勝頼を

後列田中より也之十七日在康長刃付し、到る勝
猶因在と云

△二月信長上洛拵列を棄又月廿五日、
約知日向吉光秀の舟渡國を平く○八月信長
拵列へを棄十月伴舟渡後落を意未村重遊
去そ一旗事子と生捕法中とて一斬飛
△苗美小糸氏改武列上列の境同し城と後武田
と石岐と取と○二月勝頼東上列へ發向河田の
城後落小糸の士路系是越後系勝東上列
と武田へ遠りゆへあり○七月勝頼妹越後系
勝姫娶の儀あり○八月を列高天林城高

代々

天正八年 夏

一正月六日在康長後四位上より教と同日廿四日在康三
列西尾より將と同日廿七日思滯しゆり
△正月秀吉拵列三木の城と攻落と城を別不水
三島出治城と云
△二月十六日在康信松と廿八日高天祚の城と
せめんり為大坂山より立寄と廿六日中村より
立寄廿九日強列田中より立寄と同日九日
康信松と云
△三月末勝頼豆列へ世孫小糸氏河海賊軍一統と

△ 膳料の浮揚を承りてこれと見らば一食田の
無敵勝利とゆへり

△ 六月十日家康横濱城に陣し十日より十日天祐の
討てて家康より付城とす十七日天祐の介
部と敵火を十八日天祐城外の橋と新く
濱松へ渡り○七月家康細川より陣取十日家康
作良湯へ陣取て橋と新く二日酒井正徳討り
部下の共小山とて敵と合戦し三日石川
伯耆守より命しと共と率て回中し廿四日
家康共小山とて敵逆戦し廿五日家康共小
山とて廿六日細川より還り廿七日濱松へ入

△ 七月大坂が所寺門の克作如く初陣し一
て大坂の城と流る人海にて此が難攻不抜と後
とて其土波阜へ城し一討て○八月信長大坂を
て作久の信登が敵軍大坂と攻めて切るも
怒てそを不敵と改む

△ 八月十六日山本康成改修小笠原源松より参り武
田今保よりわりの家康が城と襲へるに勝野
村をへるしるり家康討つ

△ 八月成政山中へお城踏破り高夏より信長と
襲ふる事あり故より山本と成政川と橋
見し由合

△二月勝物屋列へ向味小原三郎よりお小川と
戦物と○尚七月より甲州新府中へ勝物屋
集○佐長人質殿同沖坊と在土へ送る

△又月朔日甚康徳川一隊五二日迄候へ已り候
良し隊と佐六の御話ありと屯と二日共と敵
て還る石川他者も敵に勝つとと敵物比奈
路はちかき夫城とありととくし物者もこれと
我て敵の勇士三十二人討たぬ酒井内守内蔵
は次右邊の松平の衆も松平因幡守平忠七之御
比奈在二島小原より戦次同文平の橋井長康
とらひ天時小原右邊の御比奈守平忠と斬○六

月廿八日甚康徳松とありありと隊と○十二日
又日甚康徳伏候り候と同日十八日佐長と
甲よりありん為西尾小原等と遣へて權と在家の
城入り

天正十年^{壬午}

一正月宇田田車家死とありをを御と佐長と
尸て並家より子ありと知少ありといへとも遺物
お候と

△正月廿日甚康徳松とありありと隊と○二月勝
物屋列へ進發とありと致

△二月六日酒井長康とありと日本首領とあり

由附と故は終を急し甲州へ入むと決り○十日
 迄之は阜と○十六日武田の兵を列山の城に用
 て甲州へ奔り○十八日武康郡川上十九日武治
 原の法共合首と決り○十九日田中の城を苦田
 下城と稱して甲州へ走り○二十日武康郡河上
 城○二十七日^{モリ}田中の城を破り武治原
 十九日武康郡河上城に入つた○甲州へ走
 △三月朔日元山梅吉武康の懸下と屬と○四
 日元山武康と湯して右刀弁小倉一懸と一
 正と決り○五日河井た島河射斎原と決り四日
 河井土と○六日河井土と率て甲州へ入場

終朝のしる及しと運をと○八日武康郡
 河上と決り○九日満了と決り十日武康郡河
 上十一日勝頼年二十七を子に勝十六年田中
 の天目山とく自害と武川河上武康郡河上
 上河上令してかりは日武康元山と甲州へ走
 て終朝のしる○十七日武康郡河上と決り
 武康郡河上と決り○十九日武康郡河上と決
 て武治原とくんと決り故は武康郡河上の城
 と決り武治原とくんと決り○二十日武治原
 △四月二日武治原と決り武治原の城と決り武
 治原の河上と決り武治原と決り武治原の城と決り

雲寺の惣領一々信長自孫孫とまゝに衣殿と
女康老臣ありあつた

△五月廿一日女康安土と申すは入元八日迄と申す
大坂より廿九日大坂と申す泉列の場と申す

△六月廿七日信長日記に信長寺の寄宿二日黎明
知日向光秀謀殺して戦ふ能く寄宿
信長の遺臣森繁丸ラレ正も平親死を信長火を敵
て自害年四十九信長ハ妙光寺の宿一々信長
寺へ赴むと申す火の揚ると申す信長己の義
と申すと申す二条河原より入京の所といひ
仁親王并いゝの文の切のをいひと不可代村井春長

ウチウチひいひい織田中へ引籠あつた
光秀も亦く二条と攻められたる自害と申す
此八村并春長等平討死する者多し光秀織
田中へ振ひ地子孫と申す一々町人と申す
光秀乃安土へ赴く賊窟と奪取して安土へ
わつて取信女康和泉の場より入洛し光
秀と討んと織田を討たれども家人の謀りより
て安土へ引籠と申す困りし人として引籠
と申す三つ女康得列白子といふ事四日白子
と申す安土へ引籠と申す安土の場より入洛し
信長と申す一々女と申す女と申す

信長日記
一々

△秀吉海軍にして佐世の事とす冠城と攻めて
毛利と和睦と約し播磨姫路入り西へ到る
讃回三七佐孝母羽衣秀吉池田佐輝并より山石
道中川原を渡ふとくくひ入洛を十二日山崎
にて光秀と一戦大いに勝光秀勝龍とへ今宗
甲より伏見小栗栖とより足利のたよりを
知りし時智たる物故中の敵とて日暮され
意路平くそは宗田佐輝亮勝吉羽衣宗
宗吉秀吉池田佐輝 判筆して勝 母羽衣宗佐輝の
也秀吉お孫し佐世の子三法師と名者と
し幼少の旨は佐雄と名付とて母土り居し

む佐雄より尾張と授佐孝より美濃とてさげを
の親國嗣不の勝也秀吉吉吉の老臣分ちれく
西國し秀吉右の上洛畿川一盞の上州國より佐長
ありすとすて我々此へお遣し小栗氏政と一戦
しをとり東山をとり尾張を勝へゆり
△六月十四日佐康尾別鳴海と陳を今般中多
百物に鹿りあり斬り十八日甲別心氏に鹿り教
○十九日秀吉より佐康へ使者已より光秀を
教もて佐康必死ありとありれ故より止○廿一
日佐康鳴海より足利より還り
△越後宗勝が越後意圖しわりの毛と佐長士大

約し命し之攻しむ我平次越後より七日浦
有前へ攻詰し之敵と追拂小段れ先敵先登
川中橋より懸坂へ馳入先登と引揚り終り懸
階より敵先長城却の苦あり

△七月三日安原甲別シツの難と空りんと告ぐ敵し之
惣川より玉四日小田中又日江處七日大文八日江處
丸目甲初より十日自是降外後節玉十日御行書籠り
糧丸物と奪し之敵とあり○廿四日我敵松平
又七日後任記安原の言と難者よ友信これと拒
敵退去○廿六日安原命し之伏兵と後敵十四人
敵を同日俵列二部芦田下野に賜國中の敵

と聲し心

△小原氏重川中橋へ如原安原院親之川と涉り追拂
ふ氏重甲別へ入て南九日しり霜月来し玉
て討降

△八月三日安原先隊フツコウ音骨と降と

△六日小原氏重村司の兵と柳本安原先隊
三千余音骨とあり新府に歸りし敵これと追
りしを討安原先隊追て物よ小原先隊と敵
てとつとむ敵し新府に歸りしを討りし七日
安原平次七之命し之伏兵と後敵七人
敵○八日安原誕生原へ如原とあり二海に

△十一月甲辰回洛程勝を侵去するを康(城二十) 既綿而把鎗又尾を敵と

△多井老右衛門平忠七之介。命一甲列と獲(毛) 一め友康源松より遷る。○廿一年若回下地若沼

大膳に甲田七九郎木部次郎の敵と攻敵と(白) して遷る。○若回若田黒村田の敵と攻兵隊引いて

敵敵と曲く引いて。○若回若田地中して戦ひ三而茶 人討死。○若回若田甲辰の共と卒して若山の

敵と若(ウ)若田とこれに控一む若回下を細小田井 等の敵

天正十一年 末

一正月十六日家康源松と曲く遷る。○十八日 信雄是海より引くを康より賜る。同日家康右

良より將と回正月朔日源松より復 良より將と回正月朔日源松より復

△正月秀吉に列よ書張。○二月秀吉志津嶽の邊 して勝家より作久らるを書張と對陳

△十二日家康薨下若回下野兄弟列志尾の敵 と攻若回死九三日敵自志尾決断力属しを奪

○三月家康信列へ大久保七郎右衛門を遣へ 入敵と平く世小室の敵ととりて九八日信列復

信那と復信安並ち頼忠より賜る。○三月家康 下は属 たりとあり

△四月信孝又勝也よ海と秀吉を兵遣へ封とくま
 廿日惣改進て秀吉の將中川順若忠清秀吉以
 攻敵と廿一日秀吉を軍とくくして惣改と志津
 野柳原とくく合戦勇士七人先制し秀吉
 總て進む惣改放軍親ら勝也く長威意の元
 二日秀吉を勝よきて越前へ攻入勝也く居城小左
 と圍む廿四日秀吉を急し城と攻勝也くくく
 急く城中と敵火くく捕死秀吉を兵遣へ封とく
 信孝と政信秀吉よ討まぬ○又月秀吉改治畿
 川左邊將監一益秀吉よ治余と○秀吉を按
 別大坂の城と築兵後居る

△今年瓶業して信津義久と龍造寺隆信と肥
 前をとりくく合戦し隆信討まぬ義久これより
 威と九列よ推くを坂の大友と相戦し義久判勢
 して龍伯と争ふと
 △又月十日女康甲列より信松よ坂廿一日石川伯
 耆吉と戦ふと勝し初花の小壺と秀吉をよ
 送る○六月女康女よ小糸氏連よ後娶の儀
 わり
 △八月六日秀吉より津田右馬守とくく不初國
 汗の口と女康よ賜
 △廿四日女康法林よ割とんと勝し信松と女甲

全書七才書者
 二二

列下赴任列上田の概と志田安房と昌幸一賜
 安房と昌幸の十二月より南九月まで此地に
 石より小条の地と代取六百石の地と願ふ○
 十月又日安康正四位上ノ叙と七日に近侍格中
 納言に任じ○十一月又日安康甲州より後序に
 還り十二月四日淡松より

天正十二年 甲申

一二月廿七日安康冬藏より任三任ノ叙と
 △三月三日に雄略田中門守津川を番後井田と
 三任と尾列を賜ふ叙して秀吉と物ととの
 秀吉と秀吉と秀吉と後吉と安康より任安康今

日淡松とお思湯より○六日信雄水廻り
 秀吉の命して早湯の概と攻て外部と破
 ○十二日信雄の志と安康より通して十二日安
 康清次より十四日より安康先海軍列秀吉
 一に討つた大山の概と秀吉の任地日記保守
 恒興がたふ所獲故より安康秀吉の志と松平
 集て清次より

△十七日秀吉は安康先志と一討つた源と安
 康清次は安房の討つた及び奥平と兵部と信昌松
 平紀律も安房が多き故も安康重松平と安房
 安房より命してこれとつてりて大に利と

有三百余級といふなり。○同日早湯の戦は城兵
あつて陣列は家木北野とあつたなり。

△廿六日秀吉は陣列はあつたなり。○廿七日は康小牧に
軍を秀吉と共と率て来たは康軍と見遇く
墨と藤棚と法て陣を布し合はるは康共秀
吉棚と取り合はるは戦ひて既却る。○廿九日佐雄
小牧はあつた。

△四月八日秀吉は陣列はあつたなり。○廿九日佐雄
湯と攻めしは合はるは陣列はあつたなり。○
北野共は守村原小平太康政は多勢は
与康重大は戦ひて陣列はあつたなり。○

氏次は陣列はあつたなり。○廿九日佐雄
戦ては康又共と戦ひて。○九日康軍は佐雄
次共と福葉に戦て大に勝て陣列はあつたなり。○
津池田森橋本は戦ひて。○廿九日又康
の共と戦ひて。○廿九日又康
陣と戦ひて。○廿九日又康
一池田父子と戦ひて。○廿九日又康
と共。○廿九日又康
小幡の戦は入秀吉は陣列はあつたなり。○
しむく小幡は陣列はあつたなり。○十
日秀吉は陣列はあつたなり。○廿九日佐雄
の共は陣列はあつたなり。

軍を誘致して首級を獲

△八月朔日秀吉を引いて法別入^{得別}遊○二日佐
雄小牧とおし内^{得別}の城に入^{得別}○四日秀吉を法
別加賀江の城と圍○六日加賀江の城を破る
て死す者多し○十日秀吉を法別^{得別}作鼻
の城と圍○六月竹鼻の城を破る
列^{得別}の城

△十二日佐藤源井を為耐として小牧の城とち
らしめて法別入^{得別}○十六日蟹江^{得別}の城を
五十郎破してと秀吉の長蛇川一蓋し通守
攻めたるに於て監解江の城に入佐藤を破る

△十八日石川伯耆守を本部孫市郎を以
て攻る○十九日佐藤源井を為耐として小牧の城とち
らしめて法別入^{得別}○十六日蟹江^{得別}の城を
五十郎破してと秀吉の長蛇川一蓋し通守
攻めたるに於て監解江の城に入佐藤を破る

△七月二日越前守常田五十郎と折る
隙を以て逃^か○八日佐藤源井を破る
○十日法別入^{得別}の城を破る
○十二日法別入^{得別}の城を破る
○十四日
秀吉を佐藤源井を破る

あつてこれとわひ事よ

△八月十六日秀吉又徳川に参り○十九日秀吉先徳川に

参り徳川に付秀吉未田邊政大と康法決しり思念し徳川

△九月七日秀吉と徳川と議事しり○十八日秀吉徳川に

議事しり○十七日秀吉と徳川と議事しり○十七

日家康法決しり

△十月十日家康小牧に参り○十一日徳川と秀吉和議

しり○十六日徳川に参り○十六日徳川に参り○十六日

徳川に参り○十六日徳川に参り○十六日徳川に参り

居り十七日徳川に参り

△十月十六日秀吉又徳川に参り○十九日秀吉先徳川に

参り徳川に付秀吉未田邊政大と康法決しり思念し徳川

△九月七日秀吉と徳川と議事しり○十八日秀吉徳川に

議事しり○十七日秀吉と徳川と議事しり○十七

日家康法決しり

△十月十日家康小牧に参り○十一日徳川と秀吉和議

しり○十六日徳川に参り○十六日徳川に参り○十六日

徳川に参り○十六日徳川に参り○十六日徳川に参り

居り十七日徳川に参り

△十月十六日秀吉又徳川に参り○十九日秀吉先徳川に

参り徳川に付秀吉未田邊政大と康法決しり思念し徳川

△九月七日秀吉と徳川と議事しり○十八日秀吉徳川に

議事しり○十七日秀吉と徳川と議事しり○十七

日家康法決しり

△十月十日家康小牧に参り○十一日徳川と秀吉和議

しり○十六日徳川に参り○十六日徳川に参り○十六日

徳川に参り○十六日徳川に参り○十六日徳川に参り

發してこれと後よ故よ女康んて遣して降の
路とんをひらよ故事く日信列赤彈の澄澄
長とゆもよやとくんと是と不核長と發を
ふるよと止

天正十二年巳

一二月秀吉紀列へを發し根有寺と破却と

△三月女康行程と病が多他れ海つ深言と女康
作平愈

△四月秀吉言北山別法を定む故秀吉才秀吉を
と發秀次とと遣し四國と攻しむ長男我孫元
親以下皆降と来し四國平均○秀吉越中越

登へを發して作し内務惣政略と来

△八月吉田本房も女康と拒て敵よをり故よと大
久保七郎右衛門も世を并た右衛門之忠平忠七
之御親吉と討しよと遣し○同八月二日女康の
六吉田の敵と攻吉田父子也と殺し利とゆら
○十九日御傍女康も頼吉吉田と殺し○十日是
部孫次郎長登吉田と丸子川と殺し○十一月
廿三日三列忠海代石川伯耆守も女康秀吉
十万石の知行と招

△十二月十八日女康益右近衛大將同日右馬寮
御監と為り秀吉とくひして信雄使と御

全書抄本

四十一

以下紙と漢松より多くを原上流のりや成道スミ
許容あり

天正十四年丙戌

一春野以下紙と再漢松へ多くを原上流のり
と許容あり

二四月秀若妹漢松へ多くを原と嫁娶の儀あり
右此年譚小橋下野外記原上流

西条治部書之

信玄全集末書二十一大尾

